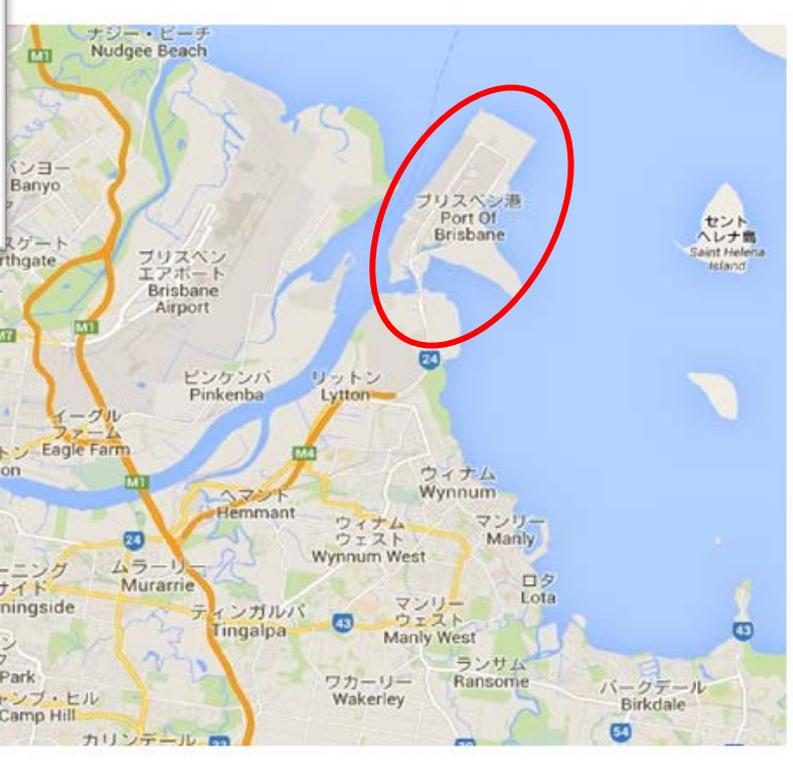


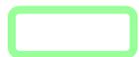
2014年度 国際港湾経営研修

～ブリスベン港の民営化と港湾経営～

横浜港埠頭株式会社 代田恵子



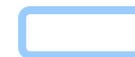
1850's-1970's頃の
ブリスベン港の位置



一般貨物ターミナル



コンテナターミナル



マルチモーダルターミナル



将来の拡張用地



鳥の保護区



上: 背後にサイロやクレーンが見える中、手前に鳥が多数生息

左下: 物流エリアと自然保全エリアを分ける水路

右下: 水門。定期的に水質調査を実施。



	ブリスベン	シドニー	メルボルン
外貿輸出入貨物量 (トン)	37,563,421	25,657,289	35,059,320
コンテナ (TEU)	1,069,881	2,126,268	2,512,141
コンテナ以外貨物量 (トン)	28,388,767	6,888,116	11,762,039
入港船舶数 (隻)	2,671 (コンテナ925)	2,139 (コンテナn.a.)	3,097 (コンテナ1,145)

○貿易相手国(収入額ベース)

	1位	2位	3位
輸出	中国	日本	タイ
輸入	中国	日本	台湾

○取扱量の伸び率

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
取扱量 (TEU)	876,943	953,095	1,006,572	1,049,897	1,066,958
前年比	-	+8.68%	+5.61%	+1.43%	+1.62%

○3つのコンテナターミナルのスペック

岸壁: No.4~No.7		DP Worldが運営				
バース数	岸壁延長	水深	スロット数	GC	リーファー	荷役機器
4	902m	14m	3486	4基	895プラグ	23台

DP WORLD Patrick Hutchison

岸壁: No.8~No.10		Patrickが運営				
バース数	岸壁延長	水深	スロット数	GC	リーファー	荷役機器
3	933m	14m	5766	4基	1796プラグ	27台

岸壁: No.11~No.12		Brisbane Container Terminal (Hutchison)が運営				
バース数	岸壁延長	水深	スロット数	GC	リーファー	荷役機器
2	660m	14m	1940	6基	930プラグ	16台

○利用船舶の大きさ

4400～5500TEUが多数を占める



2mまでは、岸壁の増深が可能だが、増深の予定はない



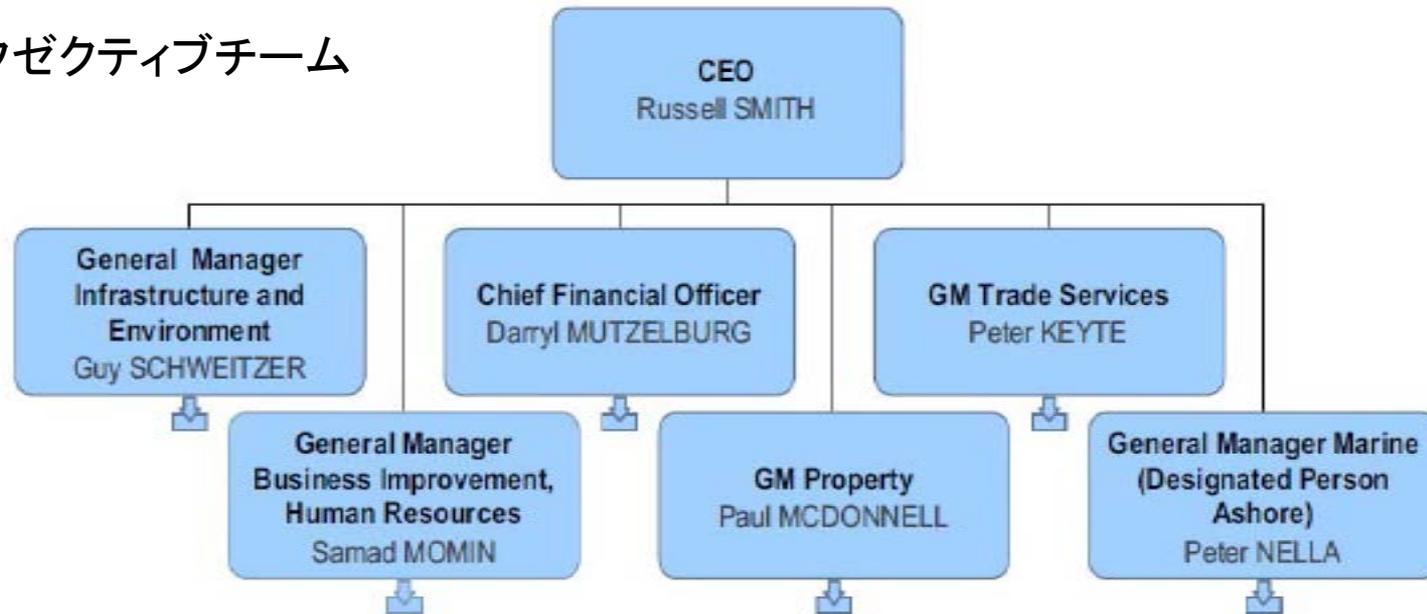
着岸船の寄港状況から、ブリスベンだけ増深する意味に乏しい。



○株主



○執行部体制=エクゼクティブチーム



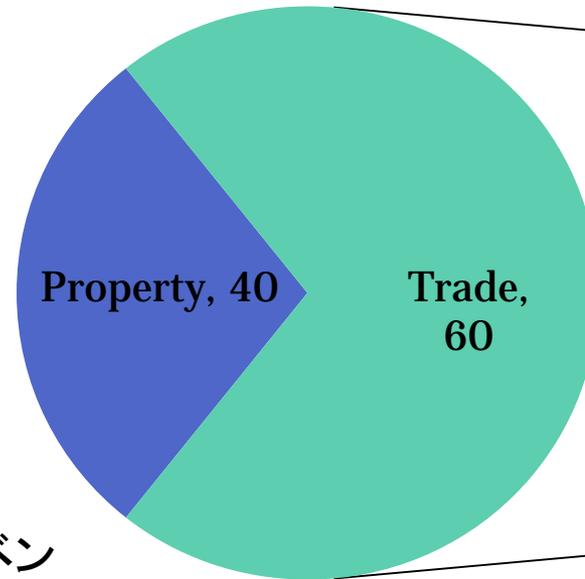
○意思決定機関=理事会

民営化の流れ

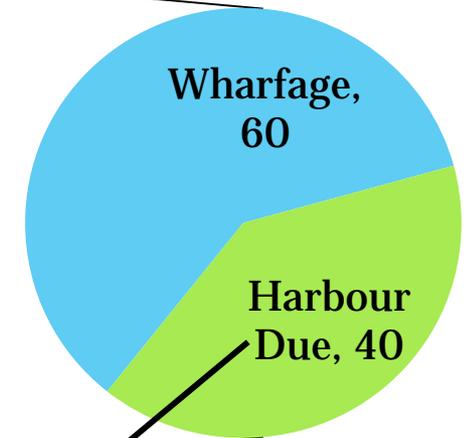
- 1976年12月 港湾管理者Port of Brisbane Authorityが設立
- 1994年 ブリスベン港湾公社Port of Brisbane Corporationが設立
港湾管理者は廃止→公社へ業務を移管
- 2009年6月 州政府による、ブリスベン港湾公社を含む州政府資産の売却
決定
- 2010年7月 州政府の全額出資によるブリスベン港株式会社Port of
Brisbane Pty Ltd(PBPL)が設立
- 2010年11月 QPHが落札し、PBPLの株式はQPHへ売却。

財務状況

収入



Trade



浚渫船: ブリスベン



＜環境対策の例＞

- ・トラックの排ガス規制
- ・渋滞の回避



大気に関する対策

＜日本での港湾エリアの緑＞

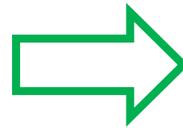
- ・フェンスや視界の妨げ
- ・外来生物(虫等)の生息地



港湾エリアでのイメージが良くない

＜ブリスベン港の取り組み＞

- ・国立海洋公園と共生し、港湾を運営
- ・島内でも環境保護エリアを設置



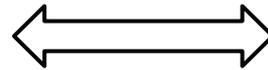
- ・環境対策への積極的取組
- 「環境共生港」の誕生

<ブリスベン>

<日本の基幹港>

ターミナル使用料が
固定費に占める割合が低い

ターミナル使用料が
固定費に占める割合が高い



オペレーター

- ・ターミナル使用料の減額は、固定費の削減に与える影響が小さい
- ・ターミナルへの投資額が大きい
→投資額を回収するまで、他港へ移りづらい

- ・ターミナル使用料の減額は、固定費の削減に与える影響が大きい
- ・ターミナルへの投資額が小さい
→他港へ移りやすく、付近に港がたくさんある

管理者

- ・使用料の減額の必要性が少なく、使用料以外にも収入がある

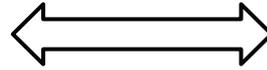
- ・ターミナル使用料の減額の要望が多く、減額は不安定な収入に直結する

<ブリスベン>

<日本の基幹港>

ターミナルの単位が大きい

ターミナルの単位が小さい



オペレーター

- ・岸壁延長を生かした複数着岸が可能
- ・広い土地を生かした有効利用 (自動化実験等)

- ・船社ごとのターミナルのため、バースの融通ができない
- ・通常荷役以外に空いている土地、空けられる土地の余裕がない

管理者

- ・広いターミナルを借り受けるオペレーターの存在
- ・1つのターミナルが広い分、契約者の数が少ない
- ・Property以外にTradeがあり、Tradeの収入の方が多

- ・大規模なターミナルオペレーターが不在。
- ・契約者数が多い
- ・ターミナル使用料による収入がほとんどを占める

THANK YOU

